

1 春に

谷川俊太郎

教科書
p.16
~17

漢字の学習

- 次の新出漢字の読み方を書きなさい。

(1) 涼(訓読み)

()

言葉の学習

- 次の線部の言葉の使い方として正しいものには○、間違っているものには×を書いて答えなさい。

(1) 試合の応援で張り切り過ぎて、声にならない。

()

(2) ゆっくりとした動きなので、見てするのがもどかしい。

()

(3) ゆっくりとした動きなので、見てするのがもどかしい。

()

(4) ゆっくりとした動きなので、見てのがもどかしい。

()

(5) ゆっくりとした動きなので、見てのがもどかしい。

()

学習のポイント

詩の種類 各行の音数に一定の決まりがある詩を定型詩、決まりがない詩を

詩の種類

詩の種類や表現技法について学びながら、詩の題名、詩の中の言葉、詩で詠まれている情景などを手がかりに、作者が伝えようとしていることをつかもう。

自由詩という。

詩の構成

【1l～5l】春のエネルギーが大地から体に伝わってくるのを感じている。
【6l～13l】自分の中の気もちがあふれ出しそうになっている。
【14l～24l】新たに出発したい気もち、とどまりたい気もちがせめぎあつてている。

詩の表現技法

- 次の詩を読んで、あととの問いに答えなさい。

春に 谷川俊太郎

① この気もちはなんだろう

目に見えないエネルギーの流れが

大地からあしのうらを伝わって

ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ

声にならないさけびとなつてこみあげる

この気もちはなんだろう

枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく

よろこびだ しかしながらしみでもある

いらだちだ しかもやすらぎがある

あこがれだ そしていかりがかくれてている

心のダムにせきとめられ

よどみ渦まきせめぎあい

いまあふれようとする

この気もちはなんだらう

あの空のあの青に手をひたしたい

まだ会つたことのないすべての人と

会つてみたい話してみたい

あしたとあさつてが一度にくるといい

ぼくはもどかしい

地平線のかなたへと歩きづけたい

そのくせこの草の上でじつとしていたい

20 15 10 5

演習問題

学習のポイント

- 次の詩を読んで、あととの問い合わせる言葉を書き入れよう。

この詩は、題名で表された ① という季節がテーマとなつていて。そして、

この詩で用いられている表現技法に注目して、作者がこの詩で読み手に伝えようとしている思いを読み取ろう。

● 用語の種類 書き言葉・古典語による詩を文語詩、話し言葉・現代の言葉による詩を口語詩という。

詩の題名の意味

● 詩の題名に示されている「春」が、この詩のテーマとなつていて。「春」は四季の始まりの季節であり、入学式や入社式などが行われる、私たちにとっての新しい出発の季節である。そんな春に感じる、いろいろな思いが詩の言葉の中に表れている。

詩の構成

● 「この気もちはなんだろう」という言葉が、詩の中で四回繰り返されている。詩の中で、このように同じ言葉が繰り返されることを反復（リフレイン）といふ。反復される言葉には、作者が特に読み手に届けたいメッセージが込められている。

詩の表現技法

● 「この気もちはなんだろう」という言葉が、詩の中で四回繰り返されている。詩の中で、このように同じ言葉が繰り返されることを反復（リフレイン）といふ。反復される言葉には、作者が特に読み手に届けたいメッセージが込められている。

詩の構成

● 「この気もちはなんだろう」という言葉が、詩の中で四回繰り返されている。詩の中で、このように同じ言葉が繰り返されることを反復（リフレイン）といふ。反復される言葉には、作者が特に読み手に届けたいメッセージが込められている。

1 春に

教科書16～17ページ

谷川俊太郎

漢字のチェック

次の――線部の漢字は読み方を平仮名で、太字の片仮名は漢字で書いて下さい。

1 読み

- ① 涡まく
② 呼ぶ
③ 黙る

2 書き

- ① ハラが痛む。
② ムネを躍らせる。
③ 木のエダを折る。

知識のチェック

- 1 詩の形式** 昔の言葉を用い、音数に一定のきまりがある詩を何というか。

次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 口語自由詩 イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩 エ 文語定型詩 オ 口語散文詩

- 2 詩の表現技法** 言葉を形や意味が対応するように並べる表現技法を何といふか。漢字で書きなさい。

学習のポイント

◆詩の概要を押さえる

全体を通して、春を迎えた複雑な気持ち(①～④)が「この気もちはなんだろう」と問いかける形で表現されている。

- ① 春になつてこみあげてくる気持ち。
- ② 喜びや期待を抱く一方、不安や悲しみを感じる複雑な気持ち。
- ③ 新しい季節や出会いに心がはやり、もどかしく思う気持ち。
- ④ 新しい季節や出会いに対して、求める気持ちと臆する気持ちがせめぎ合う複雑な気持ち。

練習問題

教科書16～17ページ

- ◆教科書16ページから17ページの「春に」(谷川俊太郎)を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) この詩の用語・形式上の種類を漢字五字で書きなさい。

- (2) 16ページ1行目「この気もちはなんだろう」について、
① 「この気もちはなんだろう」とはどのような気持ちか。次の文の□に当てはまる
言葉を詩の中から書き抜きなさい。

- (3) この詩の季節が「春」であることがわかる表現を、詩の中から十一字で書き抜きなさい。

- (4) 17ページ3～6行目「あの空のあの青に……一度にくるといい」について、次の各問いに答えなさい。

詩の基本知識

1 詩の形式

- 文語詩：昔の言葉（文語）で書かれた詩。
- 口語詩：現在の言葉（口語）で書かれた詩。
- 定型詩：音数に一定のきまりがある詩。
- 自由詩：音数に一定のきまりがない詩。

- 散文詩：普通の文章（散文）のように文を続けた形で書かれた詩。
- 詩の表現技法

- 体言止め：行末や文末を体言で止めて、余韻を残す技法。

- 倒置：普通の言い方と語順を入れ替える技法。

- 反復：同じ言葉を繰り返す技法。

- 例 いつまでも／いつまでも遠くに見える地平線

- 対句：言葉を形や意味が対応するように並べる技法。

- 例 青い空／白い雲

- 直喻：「……のようだ」「まるで……（みたいだ）」などの言葉を使わずにとえる技法。

- 例 海のよう広い心

- 隠喻：「……のようだ」「まるで……（みたいだ）」などの言葉を使わずにたとえる技法。

- 例 天使のほほえみ

- 擬人法：隠喻のうち、人間でないものを人間に見立てる技法。

- 例 空が泣いている

- ① 「あの空のあの青」とは何を暗示しているか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 毎日見ているもの。 イ 実際に触れてみたことのないもの。

- ウ 明るくかがやくもの。 エ 絶対に触れることができないもの。

- ② 記述：ここには「ぼく」のどのような気持ちが表れているか。「未知」「出て

- えて書きなさい。

- (5) 記述：17ページ9行目「そのくせこの草の上でじっとしてみたい」とあるが、ここには「ぼく」のどのような気持ちが表れているか。十字程度で考えて書きなさい。

- ア 芽吹きの季節である春に、心の奥底から希望がどんどんわき上がってくるような心情。

- イ 新学年が始まる季節である春に、自分と他者との関係を見つめ直そうとする心情。

- ウ 新しいことが始まる季節である春に、新しい世界への期待や不安があり交じった心情。
- エ 出会いと別れの季節である春に、友人との別れを悲しんだり新しい出会いを不安に思つたりする心情。



1

深まる学びへ
春に

谷川俊太郎

ねらい 表現の特徴に注目し、作者の思いを捉えよう。

練習問題題1

教科書 p.16 / p.17

◎詩の種類

① 用語の上から、口語詩（現在の言葉で書かれた詩）と文語詩（昔の言葉で書かれた詩）に分類される。

② 形式の上から、定型詩と自由詩、散文詩に分類される。

◎詩の表現技法

① 比喩：似ているものにたとえて、印象を強める。

・直喻（明喻）：「～ようだ」などを使つてたとえる。

・隠喻（暗喻）：「～ようだ」などを使わずにたとえる。

擬人法：人でないものを人であるかのようにたとえる。

② 倒置法：語順を入れ替えて強調する。

（例）願いごとをする、星を見つめながら

1 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わつて
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなつてこみあげる

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが

大地からあしのうらを伝わつて
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ

声にならないさけびとなつてこみあげる

□ (3) ——線①「ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ」とあります。この部分の表現の特徴として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 何度も言葉を言い直すことで、自分の気もちをつかみ切れない迷いを感じさせている。

イ 同じような言葉を何度も繰り返すことで、ゆるぎない力強さを感じさせている。

ウ 肉体の各所を明示することで、逆に書かれていない気もちのわからなさを感じさせている。

エ 短い言葉をテンポよく重ねることで、たたみかけるような勢いを感じさせている。

せている。

□ (4) ——線③「よろこびだ……かくれている」の部分の表現について述べた次の文の□ I ~ IIIに入る言葉を後から選び、記号で答えなさい。

どの行も、一字空きの前で□ I 気持ちが示され、後でそれを□ II 方向にはたらく気持ちが対比的に加えられているが、それをつなぐ言葉が□ III ことで、広がりを感じさせる。

ア 内向きの イ 外向きの ウ 促進する エ 抑える

オ 変わる カ 繰り返される

□ I () □ II () □ III ()

□ (5) ——線③「よろこびだ……かくれている」の部分の表現について述べた次の文の□ I ~ IIIに入る言葉を後から選び、記号で答えなさい。

どの行も、一字空きの前で□ I 気持ちが示され、後でそれを□ II 方向にはたらく気持ちが対比的に加えられているが、それをつなぐ言葉が□ III ことで、広がりを感じさせる。

ア 明るい未来を待ち望んでいるものの、つらかった過去の延長でしかな

い現実に、くじけそうな気持ち

イ 心はたくさんの希望に満ちているのに、その希望に向かつて迷いなく突

き進んでいくこともできないでいる、複雑な気持ち

ウ 空想はさまざまに広がっていくが、それをうまく人に伝え切れないと

を残念に思う気持ち

エ あまりにも多くの望みをいだきすぎて、本当の望みが何なのか自分でも

わからぬことに混乱する気持ち

□ (1) ～線「渦」の読み仮名を書きなさい。

□ (2) 詩の中で何度も繰り返されている行があります。それを書き抜きなさい。

2

握手 井上ひさし
(季節のしおり 春)を含む

漢字の学習

1 次の新出漢字を含む言葉の読み方を書きなさい。

(1)	洗濯	す	やか
(2)	稳健	い	い
(3)	鶏(訓読み)	い	い
(4)	爪先	い	い
(5)	泥(訓読み)	い	い
(6)	監督	い	い
(7)	爪(訓読み)	い	い
(8)	泥(訓読み)	い	い
(9)	泥(訓読み)	い	い
(10)	鶏舎	い	い
(11)	拘束	い	い
(12)	休憩	い	い
(13)	悦楽	い	い
(14)	慎重	い	い
(15)	懇意	い	い
(16)	百姓	い	い
(17)	冗談	い	い
(18)	慎重	い	い
(19)	百姓	い	い
(20)	慎む	い	い
(21)	傲慢	い	い
(22)	貴徹	い	い
(23)	妊娠	い	い
(24)	怠惰	い	い
(25)	一周期忌	い	い
(26)	姓名	い	い
(27)	措置	い	い
(28)	憩い	い	い
(29)	撤回	い	い
(30)	拘束	い	い

教科書
p.18
~31

2 次のそれぞれの文の 線部の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- (1) やつかいな代物。
(2) 両手を擦り合わせる。
(3) 作業を分割する。
(4) 遺言を残す。
(5) 悪い顔をする。
(6) 寂しい風景。

- (1) ワラ
アヤマ
（アヤマ）る。
(2) ノウリ
ハゲ
（ハゲ）に浮かぶ。
(3) ワラ
（ワラ）う。
(4) ハゲ
（ハゲ）しい言い争い。

3 次のそれぞれの文の □ に右のカタカナを漢字で書きなさい。

- (1) 非礼を アヤマ
（アヤマ）る。
(2) 年季が入る ノウリ
（ノウリ）に浮かぶ。
(3) うれしそうに ワラ
（ワラ）う。
(4) ハゲ
（ハゲ）しい言い争い。

言葉の学習

言葉の学習

(1) 「達者」
（アヤマ）る。(2) 「気前がいい」
（ノウリ）に浮かぶ。(3) 「奇妙」
（ハゲ）しい言い争い。(4) 「年季が入る」
（ハゲ）に浮かぶ。

(5) 「金銭や物に執着しないで、さっぱりしている。」

(6) 「珍しく、不思議なこと。」

(7) 「体が丈夫で健康なさま。」

(8) 「長く修練を積んで確かな腕をしている。」

● 次のそれぞれの言葉の意味として適切なものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

● 「握手」という題名のもつ意味を考えよう。

- 最初の「握手」(回想)……「万力よりも強く、しかも腕を勢いよく上下させるものだから、こっちのひじが机の上に立ててあつた聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。」
- 再会の「握手」……「実際に穩やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。」
- 最後の「握手」……「(わたし)しっかりと握った。それでも足りず腕を上下に激しく振った。」「ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。」

「握手」によって、ルロイ修道士の愛情や、互いの心の交流が表現されるとともに、ルロイ修道士の体調の変化をも暗示している。

読解のポイント

読解のポイント

- この物語は、「梅一輪……」は梅が咲くことに春の暖かさを感じることの喜び、「石走る……」は滝のほとりにわらびの芽を見つけて感じ取った春の訪れ、「世の中に……」は人の心をかき乱す桜の美しさについて歌っている。

この物語は、「梅一輪……」が、恩師(2)と再会し、過去の出来事を(3)する形で展開する。物語には三度の(4)の場面が見られるが、ここに、ルロイ修道士の子供たちへの(5)や、彼の(6)の変化を読み取ることができる。

ポイントチェック 次の空欄にあてはまる言葉を書き入れよう。

* 季節のしおり 春 (教 31P)

この物語は、「梅一輪……」が、恩師(2)と再会し、過去の出来事を(3)する形で展開する。物語には三度の(4)の場面が見られるが、ここに、ルロイ修道士の子供たちへの(5)や、彼の(6)の変化を読み取ることができる。

第二のまとまり：教 初め～18 P 10 l

・二人の再会の場面。

第三のまとまり：教 28 P 4 l～最後

・ルロイ修道士の葬式と、まもなく一周忌の「現在」(葬式から一年後)。

・今と過去との時間が交錯する中での、「天使園」でのエピソード。

・ルロイ修道士と「わたし」との会話。

・ルロイ修道士の葬式と、まもなく一周忌の「現在」(葬式から一年後)。

第一のまとまり：教 初め～18 P 11 l～28 P 3 l

・ルロイ修道士の人となりを説明。

・ルロイ修道士と「わたし」との会話。

・ルロイ修道士の葬式と、まもなく一周忌の「現在」(葬式から一年後)。

演習問題①

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

「おいしそうですね。」

ルロイ修道士はオムレツの皿をのぞき込むようにしながら、両のてのひらを擦り合わせる。だが、^①彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴ったのに。園長でありながら、ルロイ修道士は訪問客との会見やデスクワークを避けていた。たいていは裏の畑や鶏舎にて、子供たちの食料を作ることに精を出していた。そのために、彼の手はいつも汚れており、てのひらは櫻の板でも張つたように固かつた。そこで、あの頃のルロイ修道士の汚いてのひらは、擦り合わせるたびにギチギチと鳴つたものだつた。

「先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかつこうをしていますね。」¹⁰

フォーラークを持つ手の人さし指がぴんと伸びている。指の先の爪は潰れており、鼻くそを丸めたようなものがこびりついている。正常な爪はもう生えてこないのである。あの頃、²ルロイ修道士の奇妙な爪について、天3使園にはこんなうわさが流れていた。日本にやつて来て二年もしないうちに戦争が始まり、ルロイ修道士たちは横浜から出帆する最後の交換船で力ナダに帰ることになった。そして、連れていかれたところは丹沢の山の中。4戦争が終るまで、ルロイ修道士たちはここで荒れ地を開墾し、みかんと足柄茶を作られた。そこまではいいのだが、カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられているので、ルロイ修道士が代表となつて監督官に、「日曜日は休ませてほしい。その埋め合せは、他の曜日にきつとする。」と申し入れた。すると監督官は、「大日本帝国の七曜表は月月火水木金金。この国には土曜も日曜もありやせんのだ。」と叱りつけ、見せしめを育てている。これはどういうことだろう。

「こここの子供をちゃんと育ててから、アメリカのサークスに売るんだ。だから、こんなに親切なんだぞ。あとでどつと元をとる気なんだ。」³⁰といううわさも立つたが、すぐ立ち消えになつた。おひたしや汁の実になつた野菜がわたしたちの口に入るところを、あんなにうれしそうに眺めているルロイ先生を、ほんの少しでも疑つては罰が当たる。みんながそう思い始めたからである。

「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至つては、もうなんて言つていいか。申し訳ありません。」⁴⁰

(中略)

「総理大臣のようなことを言つてはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言つたりするのは傲慢です。それに、⁵日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

(井上ひさし「握手」より)

(教) 20 → 22 P.

- (1) 線①「彼のてのひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴つたのに」とあります。が、ルロイ修道士のてのひらが「あの頃はよく鳴つた」のはなぜですか。その理由について説明した次の文の①・②に入る適切な言葉を、①は七字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。
- (2) 線②「ルロイ修道士の奇妙な爪」とあります。が、彼が「奇妙な爪」になつた理由について説明した次の文の①・②に入る適切な言葉を、①は二字、②は三字で、本文中から書き抜いて答えなさい。
- (3) 線③「こんなうわさが流れていた」とあります。が、この「うわさ」の中で、子供たちは、ルロイ修道士が日本人に対してどのような感情を抱いていると想像していますか。次から最も適切なものを探し、記号で答えなさい。
- (4) 線④「うわさ」について、次のそれぞれの問い合わせに答えなさい。
- (1) この「うわさ」とは、どのような内容のものでしたか。その内容を、
「子供」「サークス」「元」という言葉を用いて、簡潔に書いて答えなさい。
- (2) この「うわさ」が立ち消えになつた理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア うわさをしていることがルロイ修道士に知れると叱られてしまうから。
イ ルロイ修道士の優しさが心の底からのものであると子供たちが理解したから。
- ウ ルロイ修道士が全く取り合ってくれず、続けていてもおもしろくなかったから。
- エ 人のうわさをすると罰が当たるというルロイ修道士の教えを思い出出したから。

- (5) 線⑤「日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません」とあります。が、この言葉でルロイ修道士が伝えようとしたのはどのようなことですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
- ア 「わたし」一人が謝つても、ルロイ修道士の恨みは消えないということ。
イ 日本人の誰一人として戦争責任を感じる必要はないということ。
ウ 人間を人種や国籍で判断してはいけないということ。
エ 戦争になれば敵を憎むのはやむを得ないということ。

演習問題②

●次の文章を読んで、あとに問うに答えなさい。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、1はてなど心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようななかつこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちつとも口へ運んではないのだ。

「それよりも、わたしはあなたをぶつたりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、してたら、謝りたい。」

「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だつた。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなつているのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて、ナップキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いませんが、無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつたのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰つた。そして待つっていたのがルロイ修道士の平手打ちだつた。「あさつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。搜さないで

(1) 線① 「はてなど心の中で首をかしげた」とありますか、「わたし」が首をかしげた。ことに気がついたから。
 (2) 線② 「ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて」とありますか、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」が予想外に悪い子だつたと知つたから。
イ 自分はひどい仕打ちをしたと、心が責められたから。
ウ 「わたし」に憎まれているのではと、うなづいたから。
エ もう一度と平手打ちができるなくなると思ったから。

(3) 線③ 「こつち」が指している内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 一月間、ルロイ先生が口をきいてくれなかつたこと。
 イ 大切な靴下や下着を売つてしまつたこと。
 ウ 無断で天使園を抜け出したこと。
 エ 東京まで探しに来られたこと。

(4) 線④ 「ひねり出した」の、ここでの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ひねつて取り出した
 イ いろいろ工夫して趣向をこらした
 ウ わざと違つたふうにした
 エ 工夫して金銭を調えた

(5) 線⑤ 「……」の部分に省略されていると考へられる言葉を、十五字以内(読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(6) 線⑥ 「両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける」とありますか、「このルロイ先生のしぐさの意味について説明した次の文の①・②に入る適切な言葉を、①は八字、②は四字で、本文中から書き抜いて答えなさい。

「わたしは忘れてしました。もう一度教えてくれませんか。」
 「準備に三ヶ月はかかりました。先生からいたいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとつておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏舎から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売つたりもしました。」
 ルロイ修道士は改めて⁶両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違つて、顔は笑つていた。
 「先生はどこかお悪いんですね。ちつとも召しあがりませんね。」
 「少し疲れたのでしょう。これから仙台の修道院でゆつくり休みます。力ナダへたつ頃は、前のような大食らいに戻つていますよ。」
 「だつたらいいのですが……。」
 「仕事はうまくいっていますか。」
 「まあまあと、いつたところです。」
 「よろしい。」
 ルロイ修道士は右の親指を立てた。

（井上ひさし「握手」より）

(教 22~24 P)

①
②

（内心で ① とどなつてることを意味する、② である。）

①
②

まとめの問題

A

まるでルロイ修道士が

- 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割つて、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

①

元談じやないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くために会つたようなものではないか。そういうえば、さつきの握手もなんだか変だつた。「それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は※の手でも握るようになつと握手をした。」というように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやつて、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。

②

「日本でお暮らしになつていて、楽しかったことがあつたとすれば、それはどんなことでしたか。」

③

先生は重い病気にかかっているのでしよう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこうとしたが、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた。

④

「それはもう、こうやつているときに決まっています。天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

⑤

もちろん知つている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかつても風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからぬ。そこで、中学生、高校生が知恵を絞つて姓名をつける。だから、忘れるわけはない

⑥

ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。
「わたしの癖をからかつていてるんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見つめもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまふんですよ。まずわたしが乘りますと、こんな合図をするんです。」

⑦

「わたしの癖をからかつていてるんですね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育つた子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上つてやつて来る。それを見るときがいつとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

〈井上ひさし「握手」より〉

(教) 24~26 P

- (1) 線① 「元談じやないぞ、と思った」とあります。このとき「わたし」はなぜこのように思ったのですか。「まるでルロイ修道士が」に続けて書きなさい。

(2)	※に入る最も適切な言葉を、本文中から一字で書き抜いて答えなさい。

(3)	線②「日本でお暮らしになつていて、楽しかったことがあつたとすれば、それはどんなことでしたか」とあります。」「わたし」のこの質問に対して、ルロイ修道士は、それはどのようなときだと答えていますか。書いて答えなさい。

(4)	線③「先生は重い病気にかかっているのでしよう、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた」とあります。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

(5)	線④「もちろん知つている」とあります。「わたし」が上川一雄君の名前を忘れていないのはどうしてですか。その理由を「天使園」「姓名」の記号で答えなさい。

(6)	線⑤「いつとう悲しいときは……？」とありますが、この「わたし」の質問に対し、ルロイ修道士はどのように答えていましたか。四十字程度（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

(7)	線⑥「なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです」とあります。ですが、この言葉に表れているルロイ修道士の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

(1)	ア 子供にまで、家族と離れて暮らす不幸を味わわせてほしくない。 イ 孤児院はほかにあるのだから、必ずしも天使園に来ることはない。 ウ 子供が増えて、天使園で十分な養育ができないくなるのは困る。 エ 老後は、不幸な子供から目をそらして生きていきたい。

2

教科書 18 ~ 30 ページ

握手

いのうえ
井上ひさし

次の――線部の漢字は読み方を平仮名で、太字の片仮名は漢字で書いて下さい。送り仮名が付くものは、平仮名で送り仮名も書き下さい。

1
読み

1 言葉の意味

葉の意味

1 言葉の意味 次の一練部の言葉の意味として最も適切なものを後からつづつ選び、記号で答えなさい。

- ① □か達者だ。
ア 苦手である様子。
イ 熟達していく、巧みな様子。
ウ 健康である様子。
エ 軽薄である様子。

② 技に年季に入る。
ア 時代にそぐわず、使えない。
イ 経験を積んで、腕が確かだ。
ウ 年月を経て、廃れる。
エ 時間をかけて完成する。

③ 父は気前がいい。
ア 朗らかである様子。
イ 経験が豊かな様子。
ウ 性格が明るい様子。
エ 物を惜しまない様子。

④ 奇妙な物音がする。
ア 規則正しい様子。
イ 耳に心地よい様子。
ウ 普通とは違う様子。
エ 特に優れている様子。

⑤ 失敗がこたえる。
ア 身にしみる。
イ 我慢する。
ウ 責められる。
エ すぐ忘れれる。

⑥ 地道に努力する。
ア 秘密のうちに行う様子。
イ 全く目立たない様子。
ウ 着実に物事をする様子。
エ 行いが正しい様子。

3 短文作業

2 対義語

3
短文作成

- (1) …:(の) わりに
(2) せわしい
(3) むやみに

◆文章の展開を押さえ

◆文章の二

◆文章の二
再会の場

- 漢字を確認しよう (30ページ)

次の——線部の漢字は読み方を平仮名で、太字の片仮名は漢字で書いて答えなさい。

1 読み

(1) 慎重 (2) 慎む (3) 山の麓。

(4) 休憩 (5) 憇い (6) 映える

(7) 明け初める (8) 生い立ち (9) 気後れ

2 書き

(1) 音楽のカンショウ。 (2) コンイにする。
足場のテツキヨ。 (3) 初志をカンテツする。
タイダな生活。 (4) ニンシンが判明する。
コウソクを解く。 (5) エツラクに浸る。

再会の場面	<p>・「わたし」は、ガナダに帰る前に元闇鬼を詠ねて歩いているルロイ修道士と食事をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルロイ修道士の握手は、昔と違つて穏やかだった。 ・「わたし」は、戦時中に日本人に指をたたき潰されたルロイ修道士に、日本人として謝る。 ・ルロイ修道士「一人一人の人間がいる、それだけのことですか ら」 <p>↓人さし指を立てて諭すルロイ修道士と、親指を立てて応える「わたし」。（ルロイ修道士の癖＝指言葉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルロイ修道士に食欲がない。→「わたし」は心の中で首をかしげる。 ・ルロイ修道士は、仕事がうまくいかないときは、「困難は分割せよ」という言葉を思い出すようにと言つ。 ↓これでは、遺言を聞くために会つたようなものではないか。 ・「わたし」は、ルロイ修道士が重い病気になかっているのかときどきしたが、結局は「平凡な質問」をする。 <p>↓日本で楽しかったことは？＝天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るとき。</p> <p>↓いつとう悲しいときは？＝天使園で育つた子供が、自分の子を預けに来るのを見るとき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」は、ルロイ修道士に「死ぬのは怖くありませんか」ときく。 →ルロイ修道士「天国へ行くのですから、どう怖くはありませんよ」 ↓「わたし」は親指を立て、ルロイ修道士と握手を交わす。 ・葬式で、「わたし」と会つた頃のルロイ修道士の身体は、かなり悪い状態であったことを知る。 ↓両手の人さし指を交差させ、打ちつける。 ・まもなく一周忌である。
約一年後	別れの場面

→両手の人さし指を交差させ、打ちつける。
・まもなく一周忌である。

練習問題1

◆次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

中学三年の秋から高校を卒業するまでの三年半、わたしはルロイ修道士が園長を務める児童養護施設の厄介になっていたが、そこには幾つかの「べからず集」があった。子供の考え出したものであるから、べつにたいしたべからず集ではなく、「朝のうちに弁当を使うべからず。(見つかると、次の日の弁当がもらえなくなるから)」、「朝晩の食事は静かに食うべからず。(ルロイ先生は、園児がにぎやかに食事をしているのを見るのが好きだから)」、「洗濯場の手伝いは断るべからず。(洗濯場主任のマケル先生は気前がいいから、きつとバター付きパンをくれるぞ)」といった式の無邪気な代物で、その中に、「ルロイ先生とうつかり握手をすべからず。(一、三日鉛筆が握れなくなつても知らないよ)」というのがあつたのを思い出して、それで少しばかり身構えたのだ。この「天使の十戒」が、さらにわたしの記憶の底から、^③ 天使園に収容されたときの光景を引っ張り出した。

風呂敷包みを抱えて園長室に入つていつたわたしを、ルロイ修道士は机越しに握手で迎えて、「ただいまから、ここがあなたの家です。もう、なんの心配もいりませんよ。」と言つてくれたが、彼の握力は万力よりも強く、しかも腕を勢よく上下させるものだから、こつちのひじが机の上に立てあつた聖人伝にぶつかつて、腕がしごれた。

だが、^④顔をしかめる必要はなかつた。それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそつと握手をした。それから、

15
20
25
30

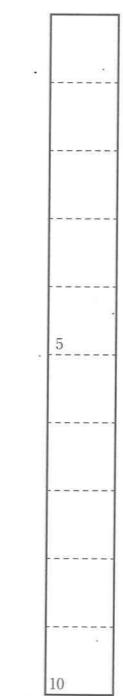
- (1) 「ルロイ修道士」は、「わたし」とつてどのようないふるい人物か。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

「わたし」が厄介になつていた

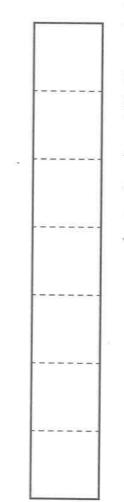


(2) 線①「べつにたいしたべからず集ではなく」について、次の各問い合わせに答えなさい。

- ① 「たいしたべからず集ではなく」ことを、別の言葉で何と表現しているか。文章中から五字以上十字以内で書き抜きなさい。(符号も字数に含める。)



- ② この「べからず集」は天使園の子供たちに何と呼ばれていたか。文章中から七字で書き抜きなさい。(符号も字数に含める。)



- ③ 線②「ルロイ先生とうつかり握手をすべからず」について、次の各問い合わせに答えなさい。

- ① 記述 ルロイ先生と握手をしてはいけないのは、なぜか。その理由を、「鉛筆」という言葉を用いて書きなさい。

- ② 線②のようないふるい内容が「べからず集」に盛り込まれたのは、なぜだと考えられるか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ルロイ先生の手は汚れていることが多いから。
イ ルロイ先生の握力が強いことは有名だつたから。
ウ ルロイ先生は握手をした手をなかなか離さないから。
エ ルロイ先生は誰とも握手をしたがらないから。

このケベック郊外の農場の五男坊^⑤は、東京で会つた、かつての収容児童たちの近況を熱心に語り始めた。やがて注文した一品料理が運ばれてきた。ルロイ修道士の前にはプレーンオムレツが置かれた。「おいしそうですね。」

ルロイ修道士はオムレツの皿をのぞき込むようにしながら、両の手のひらを擦り合わせる。だが、彼のひらはもうギチギチとは鳴らない。あの頃はよく鳴ったのに。園長でありながら、ルロイ修道士は訪問客との会見やデスクワークを避けていた。たいていは裏の畠や鶏舎^⑥にいて、子供たちの食料を作ることに精を出していた。そのため、彼の手はいつも汚れており、てのひらは櫻の板でも張つたように固かつた。そこで、あの頃のルロイ修道士の汚いひらは、擦り合わせるたびにギチギチと鳴つたものだつた。

(井上ひさし「握手」より)

間違いやすい漢字を押さえよう
同じ部分をもつ漢字に注意して練習しよう!

太字は文章中に出てくる漢字です。

洗濯

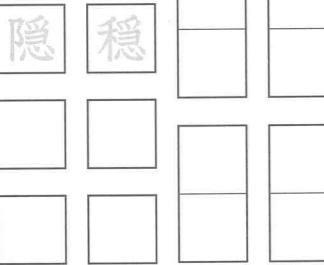
躍動

穩やか

隠れる

洗濯

躍動



- (7) よく出る——線⑥「彼のひらはもうギチギチとは鳴らない」とあるが、ここで答えなさい。

- アルロイ修道士が本当はオムレツを食べたがっていないこと。
アルロイ修道士が年をとつて、体力が衰えていること。
エルロイ修道士のひらが、以前のように固くないこと。

5
10

- (6) よく出る——線⑤「ケベック郊外の農場の五男坊」とは、誰のことか。文章中から五字以上十字以内で書き抜きなさい。

- 文部省認定の漢字練習用紙

5
10

- (5) 記述——線④「顔をしかめる必要はなかつた」とあるが、それはなぜか。文章中の言葉を用いて書きなさい。

5
10

- (4) よく出る——線③「天使園に収容されたときの光景」が書かれている部分を文章中から探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。(句読点も字数に含める。)

5
10

練習問題 3

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやつて、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。

①日本でお暮らしになつていて、樂しかったことがあつたとすれば、それはどんなことでしたか。」

先生は重い病気にかかっているのでしょう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこうとしたが、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた。

「それはもう、こうやつているときに決まっています。天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

②もちろん知つている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていました子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかつても風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからぬ。そこで、中学生、高校生が知恵を絞つて姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通つている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは楽しいですよ。まずわたしが乗りますと、こんな合図をするんです。」

ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。

「わたしの癖をからかつていてるんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのしようか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、

「わたしの癖をからかつていてるんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのしようか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待っています。」

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しつかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切つてきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしようが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しつかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた。

(井上ひさし「握手」より)

50

45

35

25

30

(1) 線①「日本でお暮らしになつていて、……それはどんなことでしたか」とあるが、ルロイ修道士はどんなときが楽しいと答えたか。文章中から三十四字で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

(2) 線②「もちろん知つている」とあるが、「わたし」がこのように言う理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 天使園の子供たちは皆、仲が良く、全員の名前を知つてゐるから。
イ 捨て子だつた上川君の名前は、自分たちが考へたものだから。

ウ 上川君の名前は、自分が特別につけさせてもらつたものだから。
エ 市営バスの運転手をしている上川君に会つたことがあるから。

(3) 線③「母親たちの最後の愛情」とあるが、具体的にはどのような思ひか。次の文の□に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

ア セメで ことなく されてほしい という思い。

(4) 線④「上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいつとう楽しいのですね」について、次の各問いに答えなさい。

① 記述 ルロイ修道士が上川君のことを「いけない運転手」と言うのはなぜ

か。理由を一つ、簡潔に書きなさい。

(5) 記述 線⑤「いつとう悲しいとき」とあるが、それはどんなときか。文章中の言葉を用いて書きなさい。

(6) よく出る 線⑥「ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた」とあるが、このときのルロイ修道士の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 死を怖がつてゐる「わたし」を安心させようと必死になつてゐる。
イ 死後、必ず天国へ行けるという確信がもてずに、不安を感じてゐる。
ウ 「わたし」が普段から死について考えていたと知り、驚いてゐる。
エ 隠していたことを「わたし」に見破られて、きまり悪く思つてゐる。

(7) 記述 線⑦「わたしは……腕を上下に激しく振つた」とあるが、このときの「わたし」の気持ちを簡潔に書きなさい。

定期テスト予想問題① 握手

井上ひさし

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

① 日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至っては、もうなんて言つていいか。申し訳ありません。

ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右の人さし指をぴんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かくフルえている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こら。」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、右の人さし指をぴんと立てるのが癖だつた。

「総理大臣のようなことを言つてはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言つたりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人とアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

「わかりました。」

わたしは右の親指をぴんと立てた。これもルロイ修道士の癖で、彼は、「わかった。」「よし。」「最高だ。」と言つ代わりに、右の親指をぴんと立てる。そのことも思い出したのだ。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようななかつこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをつつとも口へ運んではいないのだ。

「それよりも、わたしはあなたをぶつたりはしませんでしたか。あなたにはもうおしまいなのだろうか。」

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつたのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰つた。そして待つっていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。「あさつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。搜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。平手打ちよりこつちのほうがこたえましたよ。」

「そんなこともありますましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出したんです。」

「それはあのとき白状しましたが……。」

「わたしは忘れしましました。もう一度教えてくれませんか。」

「準備に三ヶ月はかかりました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとつておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売つたりもしました。」

⑥ ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。「だしあの頃と違つて、顔は笑つていた」とあるが、ここかただしあの頃と違つて、顔は笑つていた。

（井上ひさし「握手」より）

50

45

40

35

30

25

20

15

10

5

(1) 線⑦～⑨の片仮名は漢字で、漢字は読み方を平仮名で書いて答えなさい。(各2点=10点)

い。

（2）

線①「日本人は先生に対して、……申し訳ありません」について、次の各問い合わせに答えなさい。

（3）

（4）

（5）

（6）

（7）

（8）

（9）

（10）

（11）

（12）

（13）

（14）

（15）

（16）

（17）

（18）

（19）

（20）

（21）

（22）

（23）

（24）

（25）

（26）

（27）

（28）

（29）

（30）

（31）

（32）

（33）

（34）

（35）

（36）

（37）

（38）

（39）

（40）

（41）

（42）

（43）

（44）

（45）

（46）

（47）

（48）

（49）

（50）

（51）

（52）

（53）

（54）

（55）

（56）

（57）

（58）

（59）

（60）

（61）

（62）

（63）

（64）

（65）

（66）

（67）

（68）

（69）

（70）

（71）

（72）

（73）

（74）

（75）

（76）

（77）

（78）

（79）

（80）

（81）

（82）

（83）

（84）

（85）

（86）

（87）

（88）

（89）

（90）

（91）

（92）

（93）

（94）

（95）

（96）

（97）

（98）

（99）

（100）

定期テスト予想問題②

握手

井上ひさし

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

元園長は何かの病にかかり、この世のいとまゝに、こうやつて、かつての園児を訪ねて歩いているのではない。

「日本でお暮らしになつていて、楽しかったことがあつたとすれば、それほどしたことでしたか。」

先生は重い病気にかかっているのでしょう、そして、これはお別れの儀式⁽¹⁾なのですねときこうとしたが、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた。

「それはもう、こうやつているときに決まっています。天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつどう樂しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

もちろん知っている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかる風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名⁽²⁾がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵をシボつて姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通つている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは楽しいですよ。まずわたしが乗りますと、こんな合図をするんです。」

ルロイ修道士は右の親指をピンと立てた。

「わたしの癖をからかっているんですね。そうして、わたしに運転の腕前

(1) 線⑦～⑨の片仮名は漢字で、漢字は読み方を平仮名で書いて答えなさい。(各2点×10点)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

(2) 線①「お別れの儀式」とあるが、その具体的な内容を説明した次の文の()に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。(各10点×20点)

病気にかかったルロイ修道士が、

いる。

(3) 線②「結局は、平凡な質問をしてしまつた」とあるが、その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

イ ルロイ修道士は病気のように思われたが、ルロイ修道士の気持ちを考えると、軽々しく口に出せなかつたから。

ウ ルロイ修道士に感謝の気持ちを伝えたいと思ったが、恥ずかしくて言えなかつたから。

エ ルロイ修道士がわざわざ来てくれたことを考えると、ルロイ修道士を不快な気分にさせたくなかつたから。

を見てもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまふんです。25

上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいつも楽しいのですね。」

「いつどう悲しいときは……？」

「天使園で育つた子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育つた子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上つてやって来る。それを見るときがいつどう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待っています。」

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運をイノる」「しつかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切つてきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがないませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた。

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしようが。死ねば、何もいただむやみに寂しいところへ行くよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのため、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しつかりと握つた。それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた」とあるが、

(6) 線⑤「わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しつかりと握つた。それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた」とあるが、このしぐさに込められた「わたし」の気持ちとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

(各10点×20点)

ア ルロイ修道士の生き方への共感を示し、元気づけたい気持ち。

イ ルロイ修道士の癖をからかって、和ませようという気持ち。

ウ ルロイ修道士に対する敬愛の念と、別れを惜しむ気持ち。

エ ルロイ修道士と楽しい時間を過ごせたことに満足し、喜ぶ気持ち。

オ ルロイ修道士に自分のことを覚えておいてほしいと望む気持ち。

(井上ひさし「握手」より)

45

35

30

25

20

15

10

5

下に激しく振つた。

下に激しく振つた。

15

14

「わたし」は、中学三年の秋から高校卒業までの三年半を「光ヶ丘天使園」という児童養護施設で過ごした。この園長はカナダからやってきたルロイという修道士だった。

施設を出てしばらくして、ルロイ修道士に呼び出されて彼と再会した「わたし」は、彼が握手をしようとして差し出した手を見て少し身構えてしまう。当時天使園には、収容されていた子供たちが考え出した「天使の十戒（十か条の戒め）」というものがあり、その中に「ルロイ先生とうかり握手をするからだ。（一、三日鉛筆が握れなくなつても知らないよ）」というのがあったことを思い出したからである。実際に「わたし」も、天使園に初めて行った中学三年のとき、ルロイ修道士と握手を交わしたが、ルロイ修道士の握力はとても強く、しかも腕を勢いよく上下にふるため、机の上の聖人伝にひじがぶつかったほどだった。

しかし、しばらくぶりに再会したルロイ修道士の握手は、「わたし」の思いに反して、とても穏やかだった。なぜ、ルロイ修道士の握手は穏やかになつたのか……。

この物語には、ルロイ修道士の独特の手つきや指の動きの描写がたびたび出てくる。これらの動きにはルロイ修道士のどんな気持ちが表れているのだろうか。また「わたし」はこれらをどのように受け止めているだろうか。回想として語られるエピソードや、一つ一つの動きや言葉に注意して、二人の心情を捉えよう。

① 「読解の道するべ」を参考にして書こう。

② この物語は「わたし」が恩師のと再会して、過去の出来事をする形で展開する。

1 線の読み仮名を書きなさい。
 ① 祖父の遺言を思い出す。 ② 穏やかな天気の一日。
 ③ 鶏を飼う。 ④ 山野を開墾して畑を作る。
 ⑤ 土地を二つに分割する。 ⑥ 傲慢な考え方を改める。
 ⑦ とんだ代物を買わされた。 ⑧ 帝国が全土を支配する。
 ⑨ 花吹雪が舞う。 ⑩ 達者で暮らす。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

① 手にドロが付いている。 ② 恩師のイツシユウキに集まる。

漢字を確認しよう

1 次の部首の漢字を含む熟語の読み仮名を書きなさい。

① コン意（墾・懇） ② 貫テツ（徹・撤）
 ③ ニン娠（妊・任） ④ 夕日にハえる街（生・映）
 ⑤ 桜が咲きソめる（初・染） ⑥ 木々がオい茂る（生・負）
 ⑦ 気オクregaがする（遅・後）

次の各問いに答えなさい。

① 次の□に共通して入る、体の一部を表す漢字一字を書きなさい。

□前 □が立つ □を振るう □によりをかける

② 次の――線部の語句の意味を答えなさい。

① あの人気前がいいので、提供してくれるだろう。

② 手のツメを切る。

③ 祖母の死が精神的にこたえる。

④ 親方にいとまごにする。

⑤ 平凡 ↓ 凡

⑥ 危険 ↓ 全

⑦ 次の語句の対義語を書きなさい。

① 平凡 ↓ 凡 ② 危険 ↓ 全
 ③ せわしい」という語句を使って短文を作りなさい。

1 次の言葉の意味を後から選び、記号で答えなさい。

① 花冷え ② 水温む

ア 春になつて、池や川などの水が温かく感じられるようになること。

イ 桜が咲く季節に气温が一時的に低くなり、冷え込むこと。

ウ 春に、渡り鳥が北へ帰る姿が雲に入つていくように見えること。

練

習

問

題

1

教科書

p.20 l.13 p.22 l.8

その初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

1 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかつこうをしていますね。」
フォークを持つ手の人さし指がぴんと伸びている。指の先の爪は潰れてお
り、鼻くそを丸めたようなものがこびりついている。正常な爪はもう生えて
こないのである。あの頃、ルロイ修道士の奇妙な爪について、天使園にはこ
んなうわざが流れていた。日本にやつて来て二年もしないうちに戦争が始ま
り、ルロイ修道士たちは横浜から出帆する最後の交換船でカナダに帰ること
になつた。ところが日本側の都合で、交換船は出帆中止になつてしまつたの
である。そして、連れていかれたところは丹沢の山の中。戦争が終わるまで、
ルロイ修道士たちはここで荒れ地を開墾し、みかんと足柄茶を作らされた。
そこまではいいのだが、カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられてい
るので、ルロイ修道士が代表となつて監督官に、「日曜日は休ませてほしい。
その埋め合わせは、他の曜日にきっとする。」と申し入れた。すると監督官は、
「大日本帝国の七曜表は月月火水木五金。この国には土曜も日曜もありやせん
のだ。」と叱りつけ、見せしめに、ルロイ修道士の左の人さし指を木づちで思
い切りたたき潰したのだ。だから氣をつける。ルロイ先生はいい人にはちが
いないが、心の底では日本人を憎んでいる。いつかは爆発するぞ。……しか
し、ルロイ先生はいつまでたつても優しかった。そればかりかルロイ先生は、
戦勝国の白人であるにもかかわらず敗戦国の子供のために、泥だらけになつ
て野菜を作り鶏を育てている。これはどういうことだろ。

「こここの子供をちゃんと育ててから、アメリカのサーカスに売るんだ。だか
ら、こんなに親切なんだぞ。あとでどつと元をとる気なんだ。」といふうわさ
も立つたが、すぐ立ち消えになつた。おひたしや汁の実になつた野菜がわた
したちの口に入るところを、あんなにうれしそうに眺めているルロイ先生を、
人さし指をぴんと立てるのが癖だった。

「総理大臣のようなことを言つてはいけませんよ。だいたい、日本人を代表
してものを言つたりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人とかア
メリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間
がいる、それだけのことですから。」

「わかりました。」

わたしは右の親指をぴんと立てた。これもルロイ修道士の癖で、彼は、「わ
かった。」「よし。」「最高だ。」と言う代わりに、右の親指をぴんと立てる。
そのことも思い出したのだ。

(1) この文章は、今、「わたし」がルロイ修道士に会っている様子を書いてい

(2) 線①「こんなうわざ」について、次のI・IIに答えなさい。

35

36

え

だけのことだという考

議だつたのですか。二つ書きなさい。

だけのことだとい

え

だけのことだとい

練習問題題

教科書 p.22 l.9 ~ p.24 l.19

1 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなど心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようなかつこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちつとも口へ運んではいないのだ。

「それよりも、わたしはあなたをぶつたりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」

「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だつた。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなつていていたのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて、ナップキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだつたと思ひますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつたのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰つた。そして待つていていたのがルロイ修道士の平手打ちだつた。「あさつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。搜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「危険信号」と言つているのはなぜですか。

II I

(3) — 線③ 「無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつた」とあります
が、「わたし」はこの出来事を今となつてはどんなことだと思つていますか。
文中から十六字で書き抜きなさい。

(4) — 線④ 「この言葉」とは、どの言葉を指していますか。文中から書き抜きなさい。

(5) — 線⑤ 「ルロイのこの『言葉』を忘れないでください」とあります
が、この言葉を聞いて、「わたし」はどんなことを察知しましたか。その内容が最も端的に述べられている一文を文中から探し、その初めの五字を書き抜きなさい。

(6) — 線⑥ 「入る言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア いい気なもんだ イ 相変わらずだなあ
ウ 冗談じやないぞ エ さすがだなあ

()

(7) — 線⑦ 「実はルロイ修道士が病人なのではないか」とあります
が、その思つたのはなぜですか。文中の言葉を使って三つ書きなさい。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。あせつてはなりません。問題を細かく割つて、一つ一つ地道に片づけていくのです。』^⑤ ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

□、と思った。これでは、遺言を聞くために会つたようなものではないか。そういえば、さつきの握手もなんだか変だつた。「それは実際に穩やかな握手だつた。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそつと握手をした。」^⑥ いうように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやつて、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。

ルロイ修道士は右の親指を立てた。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。あせつてはなりません。問題を細かく割つて、一つ一つ地道に片づけていくのです。』^⑤ ルロイ修道士に食欲がない」とあります
が、どのように感じたのですか。

(2) — 線② 「危険信号」とは、I 何を指していますか。II また、I のことを

(8) — 線⑧ 「この世のいとまごい」とは、どういう意味ですか。最も適切な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア どうやつてこの世を生き抜くか、迷うこと
イ 故郷に帰るので、別れのあいさつをすること
ウ 病にかかつたことを知らせること
エ 死を覚悟して、別れを告げること

()

練習問題題3

教科書 p.25 b.4 p.28 b.7

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「それはもう、こうやつているときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう樂しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

①もちろん知っている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかる風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵を絞って姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通っている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは楽しいですよ。まずわたしが乘りますと、こんな合図をするんです。」

ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。

「わたしの癖をからかっているんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまうんです。上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいつとう乐しいのですね。」

「いつとう悲しいときは……？」

「天使園で育った子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育った子が、自分の子を、また

もや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上つてやつて来る。それを見る

ときがいつとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないとです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、「汽車が待っています。」

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しづかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切つてきいた。「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しつかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた。

わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

「痛いですよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなつた。まもなく一周忌である。わたしたちに会つて回つていた頃のルロイ修道士は、身体中が悪い腫瘍の巣になつていたそうだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

(井上ひさし『握手』)

45

40

35

30

20

- (1) ルロイ修道士がした上川君の話は、何の例として話されたものですか。
- (2) ——線①「もちろん知っている」とあります、「わたし」はなぜ上川君のことをよく知っているのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 上川君と「わたし」は特に仲が良かつたから。
イ 捨てられていた上川君を発見したのは「わたし」だから。
ウ 上川君は捨て子の名前をつけるのが上手だったから。
エ 上川君の名前を考えてつけたのは「わたし」たちだから。
- (3) ——線②「なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです」という言葉から、ルロイ修道士のどんな考えが読み取れますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 自分が親のいない悲しさを味わったことで立派になれたからといって、子供に同じ境遇を味わわせる必要はない。
イ 児童養護施設としてどんなに優れていても、わざわざ子供まで入れるほどよいところではない。
ウ 親のいない悲しさを知っているなら、同じ思いを自分の子供にも味わわせるようなことはしないでほしい。
- (4) ——線③「にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい」という言葉に入れるのは甘えすぎだ。
- ア 自分が天使園で幸せに育つことができたからといって、子供まで天使園に入るようではいけない。
イ 児童養護施設としてどんなに優れていても、わざわざ子供まで入れるほどよいところではない。
- (5) ——線④「わたしは右の親指を立て……腕を上下に激しく振つた」という行動から、「わたし」のどんな心情が読み取れますか。適切なものを次のうちから二つ選び、記号で答えなさい。
- ア 楽しくにぎやかであればよしとする享楽的な姿勢
イ 波風たてず物事をまるく收めようとする消極的な姿勢
ウ 何事もよいほうに考えようとする前向きな姿勢
エ 何事も流れに任せようという投げやりな姿勢

- (6) ——線⑤「ルロイ修道士は顔をしかめてみせた」とありますが、このときのルロイ修道士の気持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
- ア 死が迫つていることを自覚させられ、恐怖を感じている。
イ 「わたし」の思いを受け止めたうえで、照れを隠している。
ウ 教え子と自分の立場が逆転したことに対する、不愉快に思つてゐる。
エ 病人の手を強く握る「わたし」の思いやりのなさに対する、腹を立てている。
- (7) ——線⑥「わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」とありますが、ここから「わたし」のどんな心情が読み取れますか。

読解の強化ワーク

*『握手』の内容を話の流れに沿って次のようにまとめました。空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

回想(近い過去)

○「わたし」は上野公園の西洋料理店でルロイ修道士と再会した。

○ルロイ修道士に手を差し出される。

回想(遠い過去1)

・「わたし」が①に収容されたときの力強い握手のこと
↓「わたし」への愛情と励まし

回想(遠い過去2)

○再会したルロイ修道士の握手は穏やかだった。
だから、こっちのひじが机の上に立ててあつた聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。」

回想(遠い過去3)

・ルロイ修道士が②を擦り合わせると音がしていたこと
→ルロイ修道士の体調の変化

回想(遠い過去4)

○ルロイ修道士の人さし指が、不思議なかつこうをしている。

回想(遠い過去5)

・ルロイ修道士の人さし指の③の形にまつわること
別れるときの「握手」

回想(遠い過去6)

○「わたし」が日本人を代表して謝るような言ひ方をして、ルロイ修道士にたしなめられる。

○「わたし」たちが天使園から抜け出した事件のこと

○ルロイ修道士に④がない。

回想(遠い過去7)

○「わたし」は当時の事情を再び説明した。
↓「わたし」への愛情と励まし

回想(遠い過去8)

○ルロイ修道士が⑤のようなことを言う。
→ルロイ修道士の体調の変化

○上野駅の改札口で、握手をして別れる。

現在

■まもなくルロイ修道士の⑥である。

・ルロイ修道士の葬式で、「わたし」たちに会っていた頃の病状を聞いた。

観点2

*「わたし」とルロイ修道士の「握手」の場面を次のようにまとめました。それぞれの「握手」の意味を考え、空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

遠い過去の回想の中での最初の「握手」

「彼の握力は①よりも強く、しかも腕を勢いよく上下させるものだから、こっちのひじが机の上に立ててあつた聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。」

再会したときの「握手」

「だが、顔をしかめる必要はなかった。それは実に穏やかな握手だった。ルロイ修道士は②の手でも握るようにそっと握手をした。」

別れるときの「握手」

「わかりましたと答える代わりに、わたしは右の③を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。」

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけるしぐさの場面を次のようにまとめました。それぞれの「しぐさ」に表れている気持ちを考え、空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させて打ちつけるしぐさ」の場面を次のようにまとめました。それぞれの「しぐさ」に表れている気持ちを考え、空欄に入る言葉を後の□から選び、書きなさい。

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違つて、顔は②」

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「ルロイ修道士の葬式での「わたし」の「しぐさ」」

「葬式でそのことを聞いたとき、わたしは③に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。」

→くやしさやもどかしさが、ルロイ修道士の癖と同じしぐさで表れている。

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「葬式でそのことを聞いたとき、わたしは③に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。」

遠い過去の回想の中での「しぐさ」

「笑っていた」となっている
→くやしさやもどかしさが、ルロイ修道士の癖と同じしぐさで表れている。

■天 使 園 修 道 院 爪
一 周 忌 食 慾 遺 言
お 別 れ 癖 て の ひ ら
身構えた などめる

3

学びて時にこれを習ふ―「論語」から(「評価しながら聞く」を含む)

教科書
p.32
~35

学習のポイント

読解のポイント
漢文を訓読するためには、返り点・送り仮名などを「訓点」という。

① 送り仮名を読もう。

国 破レ 山 河 在リ。（國破れて山河在り。）

② 返り点の処理を覚えよう。

レ点……下から上の一字に返る符号。② ↓ ① ↓ ① ↓ ② の順で読む。

(例) 不ニ 亦また 説よづ 乎シカラ。（また説ばしからずや。）

* 「評価しながら聞く」(教 35 P)

話し合いでは、発言者の意見を評価し、自分の考えと比較して内容を検討しよう。

章	文章の概要
学びて時にこれを習ふ	学問の喜びと、「君子」の心構えについて。
(教) 33 P 1 ℓ (教) 33 P 6 ℓ)	「温故知新」を体得した者には、師となる資格がある。
温故知新 (教) 33 P 7 ℓ (教) 33 P 9 ℓ)	広く先人に学ぶこと(学ぶ)と、自分でよく考え研究すること(思ふ)は、バランスよく大切にすべきである。
学びて思はざれば (教) 34 P 1 ℓ (教) 34 P 3 ℓ)	知る者よりも好む者、好む者よりも楽しむ者が勝っている。
これを知る者は、 (教) 34 P 4 ℓ (教) 34 P 4 ℓ (最後)	

演習問題 1

1 次のそれぞれの書き下し文の 線部の言葉の意味を調べて書きなさい。

(1) 朋遠方より来たるあり

(2) また君子ならずや

(3) 故きを温めて新しきを知れば

(4) これを好む者に如かず

2 次のそれぞれの書き下し文の 線部の言葉の意味として適切なものをあ

とから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 学びて時にこれを習ふ

(2) もつて師たるべし

(3) 人知らずして懼うらみず、また君子ならずや

(4) ア 知らないうちに。

(5) イ 無知の今まで。

(6) ウ 認めてくれなくとも。

3 次のそれぞれの書き下し文の 線部の読みを現代仮名遣いで、全てひら

がなで書きなさい。

(1) 学びて時にこれを習ふ

(2) もつて師たるべし

(3) 人知らずして懼うらみず、また君子ならずや

(4) ア 知らないうちに。

(5) イ 無知の今まで。

(6) ウ 認めてくれなくとも。

4 次のそれぞれの漢文を書き下し文に直して書きなさい。

(1) 百聞ハ 不レ 如ニ 一見ニ(2) 尽クシテ 人ヲ 事ツ 待ツ 天ヲ 命ヲ(3) 歲ハ 月ハ 不レ 待レ 人ヲ

(4) 学びて時にこれを習ふ

(5) 時代の流れを感じたら。

(6) 機会があるたびに。

ア 時代の流れを感じたら。

イ 機会があるたびに。

ウ ときどき。

✓ ポイントチェック 次の空欄にあてはまる言葉を書き入れよう。	
この単元では、中国古代の思想家・ <small>①</small> の言行を記録した「 <small>②</small> 」	の言行を記録した「 <small>②</small> 」
から、四つの章が紹介されている。一つ目は学問の喜びと「 <small>④</small> 」	から、四つの章が紹介されている。一つ目は学問の喜びと「 <small>④</small> 」
について、二つ目は「 <small>⑤</small> 」について、三つ目	について、二つ目は「 <small>⑤</small> 」について、三つ目
は自らよく考え研究すること(思ふ)と先人から学ぶこと(学ぶ)の	は自らよく考え研究すること(思ふ)と先人から学ぶこと(学ぶ)の
バランスについて、四つ目は知るよりも好み、好みよりも	バランスについて、四つ目は知るよりも好み、好みよりも
切さについて述べられている。	切さについて述べられている。

● 次の文章を読んで、との間に答へなさい。

演習問題②

① 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、²また説ばしからずや。朋遠方より來たるあり、¹人知らずして懼みず、また君子ならずや。」と。

子曰、^{ハク}「学^{ビテ}而^{シテ}時^ニ習^フ之^{これヲ}、不^{マタ}亦^{シカラ}説^{バシカラ}乎[。]
有^リ朋^下自^二遠^一方^上來^{タル}、不^二亦^一樂^{シカラ}乎[。]

子曰はく、「故^{ふる}きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。」と。
子曰、「溫^温故^故而^{シテ}知^{シテ}新^ニ可^{ベシト}以^{モツテ}為^{タル}師^{也。}
人^不知^{シテ}而^{シテ}不^レ懼^ミ、不^レ亦^{シカラ}樂^{シカラ}乎[。]

子曰、「⁴溫^温故^故而^{シテ}知^{シテ}新^ニ可^{ベシト}以^{モツテ}為^{タル}師^{也。}
⁵」

C

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔^{すなは}し。思ひて学ばざれば則ち殆^{あやふ}し。」と。

子曰、「⁶學^{ビテ}而^{シテ}不^レ思^{ハシレバ}則^チ罔^シ、⁷思^{ヒテ}而^{シテ}不^{レバ}學^バ則^チ殆[。]
殆^{シテ}（為政）

D

子曰はく、「これを知る者は、⁵これを好む者は、これを樂しむ者に如かず。」と。

子曰、「⁸知^ル之^ヲ者^ハ、不^レ如^カ樂^{シム}之^ヲ者^ハ、⁶好^ム之^ヲ者^ハ、不^レ如^カ好^ム之^ヲ者^ハ。
好^ム之^ヲ者^ハ、不^レ如^カ樂^{シム}之^ヲ者^ハ、⁷（雍也）」

(教)

33 34 P

(1) 線①「子」について、次のそれぞれの間に答へなさい。

(2) 「子」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答へなさい。

- ア 子供 イ 先生
ウ 女性 エ 恩人

(3) ここでは具体的に誰のことですか。漢字二字で書いて答へなさい。

(4) 「また説ばしからずや」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答へなさい。

- ア どうしてうれしいのだろうか。
イ なんとうれしいことではないか。
ウ 再びうれしいことが起ころうだろう。
エ 単純にうれしいとはいえない。

(5) 線②「また説ばしからずや」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答へなさい。

- ア どうしてうれしいのだろうか。
イ なんとうれしいことではないか。
ウ 再びうれしいことが起ころうだろう。
エ 単純にうれしいとはいえない。

(6) 線③「温故而知新」を書き下し文に直して書きなさい。

(7) 線④「温故而知新」を書き下し文に直して書きなさい。

(8) Cの文では、学問をするうえで何が必要であると述べられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答へなさい。

(9) Bの文から生まれた四字熟語を書いて答へなさい。

温 故 而 知 新

- ① Dの文では、どのような内容が述べられていますか。次の文の①に入る適切な言葉を書いて答へなさい。
（何かについて詳しく）①人は、それを②な人にはかなわないし、それを好きな人は、それを楽しむ人にはかなわない。つまり、何事も③ことが一番大切だ。）

3 学びて時にこれを習ふ——「論語」から

● 知識のチェック

1 文学史 「論語」について説明した次の文の()に当てはまる言葉を書きなさい。

「論語」は、中国古代の思想家で、「儒教の祖」である()とその弟子たちの言行を記録したもの。

その思想は、中国だけでなく日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

2 古典の仮名遣い 次の言葉を現代仮名遣いに改め、全て平仮名で書きなさい。

- (1) 曰はく (2) 習ふ (3) もつて
 (4) 則ち (5) 思ひて (6) 疎し

3 訓読のきまり 次の漢文を読むときの漢字を読む順序を、()に数字を書き入れて答えなさい。読まない字には×を書きなさい。

- (1) 知る (2) 不レ (3) 不レ (4) 可ベシ
 (5) 以もテ (6) 亦また (7) 楽シカラ (8) 好ム (9) 之ヲ (10) 者ハ
 (11) 为ジ (12) 師矣。

4 訓読のきまり 次の漢文に、後の書き下し文を参考にして返り点を付けなさい。

- (1) 学而時習之。
 (2) 有朋自遠方來上タル
 (3) 人不レ知而不レ懼
 (4) 不亦君子乎。

〈書き下し文〉 また君子ならずや。

5 書き下し文 次の漢文を書き下し文に改めなさい。

- (1) 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ……」

- (2) 仲間他人
 (3) 有りとも自二遠方來上タル
 (4) 人不レシテ而レ不レ懼
 (5) 不亦君子乎。

6 漢文の言葉 次の一線部の語の意味として最も適切なものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ……」
 (2) 君子ならずや。
 (3) 德の高い人格者。
 (4) 信頼のにおける先輩。
 (5) 道徳心に欠ける指導者。

1 学習のポイント

文章の内容を押さえる

ここでは、「論語」の四つの章句が紹介されている。それぞれの章句の内容は次の通り。

学びて時にこれを習ふ
 故きを温めて
 学びて思はざれば
 これを知る者は

学問の喜び、友との交流、人としての徳などについて
 過去の事柄などから学ぶことの大切さを説く。
 思索と学習のバランスについて説く。
 人生や学問に対する根本的な態度を説く。

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

2 文学史

孔子……中国古代の思想家。人格や道徳を高めることで世を治めることを理想とした。「儒教の祖」として、中国のみならず日本の学問や思想にも多大な影響を与えた。

・「論語」……孔子とその弟子たちの言行を記録したもの。

注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて

3 漢文の基本知識

1 古典の仮名遣い

漢文では、古文と同様に歴史的仮名遣いが用いられているので、読み方に注意する。

(1) 語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 いはく→いわく
 「つ」→「ツ」
 もつて→もつて</p

練習問題

◆次の[A]～[D]の漢文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

[A] 子曰はく、「^①学びて時にこれを習い、^②また説ばしからずや。」

朋遠方より來たるあり、また樂しからずや。
人知らずして懼みず、また君子ならずや。」と。

子曰「學而時習之、不亦說乎。」

有朋自遠方來不亦樂乎。

人不知而不懼、不亦君子乎。」（学而）

子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、

もつて師たるべし。」と。

子曰「溫故而知新、可以为師矣。」（為政）

[C] 子曰はく、「^③思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

子曰「知之者不レ好之者^ム。」（雍也）

子曰「學而^{レバ}思則罔。思而^{レバ}學則殆。」（為政）

[D] 子曰はく、「これを知る者は、^⑦これを好む者に如かず。

これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。」と。

子曰「^⑥知之者不レ好之者^ム。」（雍也）

子曰「^④學而^{レバ}思則罔。思而^{レバ}學則殆。」（為政）

〈現代語訳〉

[A] 先生がおっしゃるには、「学問をして、機会があるたびに「」し、それを体得するのは、「」。友人が遠方からやつてくるのは、なんと楽しいことではないか。世の中の人が認めてくれなくとも不平や不満を抱かないのは、なんと「」ではないか。」と。

[B] 先生がおっしゃるには、「古い事柄を重ねて研究し、そこに新しい意義が発見できるようになれば、人の師となる資格があるものだ。」と。先生がおっしゃるには、「古い事柄を重ねて研究し、そこには新しい意義があやふやになる。（自分で）考えるだけで（広く先人の意見や知識に）学ばない（独断に陥つて）危険である。」と。

[D] 先生がおっしゃるには、「何かについて（詳しく述べ）知っている人は、『』。何かを好んでいる人は、それを楽しんでいる人に及ばない。」と。

(1) —線①「学びて時にこれを習ふ」の意味を説明した次の文の（ ）に当てはまる言葉を書きなさい。

機会があるたびに（ ）し、それを体得する。

(2) 記述——線②「また説ばしからずや」を現代語訳しなさい。

(3) —線③「君子」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身分の高い貴族。 イ 趣味のよい教養人。
ウ 德の高い人格者。 エ 学識豊かな研究者。

(4) —線④「温 故 而 知 新」に、書き下し文を参考にして、送り仮名でと返り点を付けなさい。

温 故 而 知 新

(5) よく出る[B]の文章から生まれた四字熟語を書きなさい。また、その意味としで最も適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

・四字熟語：（ ）

ア 昔からの習慣を大切にし、次の世代に伝えていくこと。
イ 記号で答えなさい。
ウ 昔のことを研究し、その矛盾点や間違いを発見すること。
エ 昔のことを探査し、そこから新しい知識を発見すること。

(6) [C]の漢文中の「思」「学」の意味として最も適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

・思：（ ）
ア 人の行動をよく観察すること。
イ 広く先人の意見や知識を取り入れること。
ウ 先生に質問して教えてもらうこと。
エ 自分でよく考えて研究すること。

(7) よく出る——線⑤「殆し」とあるが、なぜ危険なのか。次の文の（ ）に当てはまる言葉を現代語訳の中から書き抜きなさい。

自分の考えだけに頼つて（ ）の意見や知識に学ばないでいると、（ ）に陥つてしまふから。

(8) よく出る——線⑥「學而^{レバ}思則罔」を書き下し文に改めなさい。

(9) 記述——線⑦「これを好む者に如かず」を現代語訳しなさい。

(10) 記述——Dの文章では、物事に取り組むとき、どのような人が最もよいとしているか。簡潔に書きなさい。

練習問題 1

教科書 p.33 ~ p.34

1 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

① 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説はしからずや。
朋遠方より來たるあり、また樂しからずや。
人知らずして懼みず、また君子ならずや。」と。

〔訓読文〕 子 曰、「学 而 時 習 之、不 亦 説 乎。」

〔訓読文〕 有り 朋 自二 遠 方 来上 不二 亦 樂 乎。

〔口語訳〕 先生がおっしゃるには、「学問をして、機会があるたびにそれを復習して体得することは、なんとうれしいことではないか。学問をするうえ

での友達が遠くから訪ねてきてくれたりするのは、なんと楽しいことではな
いか。世の中の人が自分を認めてくれなくとも不平や不満を抱かない人

は、徳の高い、理想的な人格者ではないか。」と。

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。」

思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

〔訓読文〕 子 曰、「学 而 不 亦 思 乎。則 因 乎。思 而 不 亦 学 乎。則 殆 乎。」

〔口語訳〕 先生がおっしゃるには、「広く学んでも、自分でよく考えて研究しないと物事の道理を明確につかむことができない。だからといって、自分の考えだけに頼つて、広く先人の意見や知識に学ばないと、独断に陥つて危険である。」と。

(『論語』)

20

15

1 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

(1) 線①「子」とは、誰のことですか。

(2) 線②「これ」とは、どんなことですか。五字以内で書きなさい。

(3) 線③「すや」は、この場合どんな意味を表していますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 仮定 イ 断定
ウ 反語 エ 疑問

(4) 〔B〕の文で「子」が言いたいのはどんなことですか。次の〔 〕に入る言葉を書きなさい。

学問と思考とは

(5) 〔B〕の文で、「学ぶ」だけや「思う」だけだと、どうだと「子」は言つてありますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 一つのことを深められてよい。
イ どちらも同じくらい重要なことである。

ウ 正しい理解ができない。

21

学びて時にこれを習ふ——「論語」から

1 「読みの道するべ」を参考にして書こう。

『論語』は、中国の思想家、孔子と、その弟子たちの言行をまとめたものである。孔子は、中国古来の思想に基づきながら、人格や道徳を高めることを目指した思想を立てた。この思想は、中国のみならず、日本の学問や思想にも大きな影響を与えた。

漢文の読み方

1 返り点……読み方の順番を表す記号。

・レ点……下の字を読んでから上の字を読む。
② ① ④ ③

・一・二点……一の字を読んでから二の字を読む。

② ① ⑤ ③ ④

・上・下点……一・二点の字を読んでから、上の字、下の字の順で読む。

⑥ ① ④ ② ③ ⑤ 上

2 読解……漢文を日本語の順に従つて読むことを訓読といふ。

3 送り仮名……訓読のために右下に補う仮名。日本語の助詞・助動詞・用言の活用語尾などを示す。

(例) 学 而 時 習 之、不 亦 説 乎。

4 書き下し文……漢文を送り仮名と返り点に従つて、漢字仮名交じりの文語文に書き改めたもの。

(例) 学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。

1 次の訓読の順序を記号で答えなさい。

(例) ア レ イ ウ → 「イ・ア・ウ」

① ア イ ウ

② ア イ ウ

③ ア イ ウ

④ ア イ ウ オ

⑤ ア イ ウ

⑥ ア イ ウ

⑦ ア イ ウ

⑧ ア イ ウ

⑨ ア イ ウ

2 「備へ有れば患ひ無し」と訓読できるように、「有 備 無 患」に返り点を打ちなさい。

〔 有 レバ 備 ヘ 無 シ 患 ヒ 〕

予習のワーケ

3 深まる学びへ



1 「読みの道するべ」を参考にして書こう。

『論語』は、その弟子たちの言行をまとめたもの。

漢文を日本語として読むする場合、読む順序を示す返り点や、を補つて読む。

① 漢文特有の言い回しや語句の理解を深めよう。

② 「論語」に表れているものの見方や考え方を捉えよう。